

令和7年度 文部科学省委託事業

「他分野連携による新たな障害者の生涯学習のモデル・ネットワーク構築」

まぜこぜスポーツまるシェから
繋がる広がる
共創と共生の街づくりvol.3

活動報告書

.....

一般社団法人ASOBI



1. わたしたちの問い

地域は、ちがいを受けとめきれているか？

障がいのある人となない人を隔てる

“漠然とした不安”。

その多くは、

「一緒に活動をした経験がないこと」から生まれています。

私たちは、

同じ時間・同じ場所を共有する経験を

地域のなかに増やすことに挑戦しています。

2. 本事業で 目指したもの

生涯学習の“理想のかたち”とは

障がいのある人の生涯学習も、障がいのない人と同じように

- 選択肢がたくさんある
 - 身近にある
 - 気軽に試せる
 - 継続できる
- ・・・そんな環境であることが理想です。

私たちは、

地域の既存の学習環境をインクルーシブに、

つまり“**共に学ぶ**”場にすることを目指しています。

3. 取組その①

まぜこぜトランポリン体験会

2025年6月15日 参加者数 147名

ほぼ全員がトランポリン初体験。

だからこそ、**能力比較ではなく挑戦を応援する**
空間がうまれました。

- 「自分なりの形・手法」を受容する経験。
- 障がいの有無に関係なく共有された感情や喜びの循環が、障がいへのアンコンシャスバイアスを和らげた。
- 自発的な挑戦は、能力の問題ではなく、環境設定の問題であるという気付き。
- 障がいに触れたことのない指導者にも意識変化をもたらした。



4. 取組その②

まぜこぜまるシェ

2025年8月2日 参加者数 134名

「同じ机を囲み」

「同じ素材に触れ」

「同じ時間を過ごす」。

- 地域で行われている生涯学習をインクルーシブな風景に変えることができることを可視化した。
- 属性を超えた学びの場が増えることは、障がい当事者の生涯学習の機会拡大につながることを可視化した。



5. 取組その③

まぜこぜスポーツまるシェ

2026年2月7日 参加者数 93名

ASOBIがあらたなインクルーシブスポーツ3競技を考案し、「チーム競技」もインクルーシブにできることを実証。

[今回考案した競技]

- ・ まぜこぜ野球盤
 - ・ まぜこぜウォーキングバスケットボール
 - ・ まぜこぜ跳ばないバレーボール
-
- ・ スポーツという相互作用が強い活動においても同じ場で活動することができることを示した。



6. 数字でみる成果



文科省委託事業の
参加者合計（3回）

374人



ボランティア延べ

126人



インクルーシブ理解が
向上したと回答した割合

86.4%

大きく変わった27.3%
少し変わった59.1%
新しい変化なし13.6%

参加した主な障がい種

知的障がい・発達障がい・運動機能発達遅延・ダウン症
視覚障がい・切断障がい・脳性麻痺などによる身体障がい
車椅子利用 など

2/7まぜこぜスポーツまるシェ
スタッフアンケートより

7. 参加者の声 ボランティアの声



運動機能に障がいがある息子は本来は身体を動かすのが大好き。でも年齢が上がるにつれて友だちとの差を感じている様子だった。でも今日は、息子のできる形をその場でルールにしてくれて、息子もみんなと一緒にできることがとても嬉しそうでした。ずっと続けてほしい。

(30代／障がい児のお母さん)

障害のある人もない人も一緒に同じ場で楽しむためには、自分1人の配慮だけでは足りず、みんなで理解し合ってルールなども臨機応変に変えていくことが重要だと気付くことができました。

(20代／学生)



8. 成果報告会の開催

1. 委託事業 3 年間の活動報告
2. イベント参加者、ASOBIボランティアによるトークセッション
3. 研究発表 スポーツを通じた交流が共生社会の実現にもたらす効果
発表者：聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部作業療法学科 藤田さより先生
4. 多分野クロストーク 多分野連携でつくる理想の未来のかたち

ファシリテーター：浜松市障がい者基幹相談支援センター長 後藤翔一郎氏

登壇者：浜松市市民部スポーツ振興担当 部長 杉田実良氏

浜松市東障がい者相談支援センター 所長 平野明臣氏

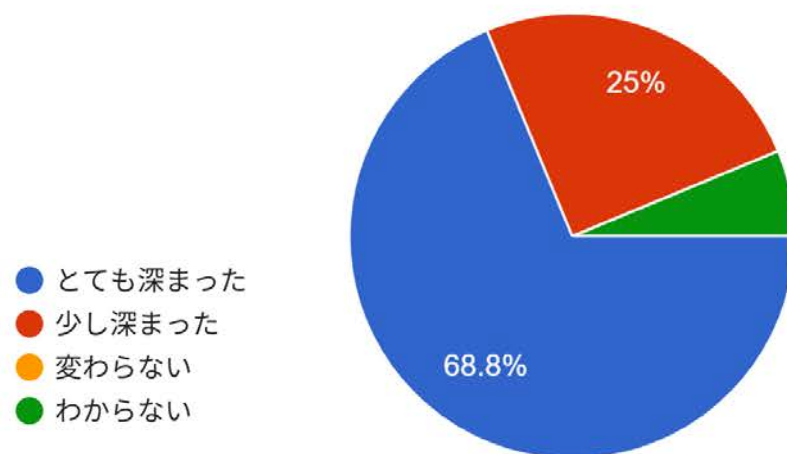
株式会社シーマー 代表取締役社長 嶋俊輔氏

一般社団法人ASOBIメンバー 瀧崎亮



9. 成果報告会の感想

Q. 成果報告会を通して「インクルーシブなスポーツ・生涯学習」に対する理解は深まりましたか？



Q. 新たに得られた視点や気づきがあれば教えてください。

- 理解より、まずは行動。理解はそのあとに追いついてくる。まず経験をすることで心が動く。感情をもつ人間は、まず行動することが大切なのだと感じた。
- 活動を通じて、障がいに対する壁がなくなったと感じている。その壁の存在に気付いた瞬間に、壁は消えていく。
- ルールは文化ごとにちがう。だからこそ共通点を探す必要がある。共通点を見出すためには一人ひとりの価値観を知ることが必要である。
- 改めて、障がいのある人の活動の場は制限されていることを知りました。
- ボランティア参加もインクルーシブに触れることになると感じられた。

10. 次年度の展望

本委託事業を通じて得られた成果は、単発的なイベント実施に留まらず、「インクルーシブな生涯学習モデル」として地域へ横展開すると同時に、持続可能な仕組みとして実装していくことを目指しています。

- 1 他地域でのモデル実装
- 2 インクルーシブスポーツの行政主催イベントへの導入提案
- 3 競技団体・企業との連携強化

おわりに

**共に活動する経験が、
地域の受容力を育てていく。**

障がいのあるかたの生涯学習機会は、
特別な場所ではなく、
地域のなかに当たり前存在するものへ。

私たちは、
その“入り口”を広げ続けます。



連絡先

一般社団法人ASOBI



<https://www.asobi11.com/>



info@asobi11.com



090-1858-7684（寺田）

